

## 学生大使 実施報告書

氏名:工藤 美乃

学部・学科(コース)・学年:人文社会科学部人文社会科学科総合法律コース・1 年

派遣先大学:ガジヤマダ大学

派遣期間:2/26-3/12

### 1 日本語教室での活動内容

日本語教室ではひらがな・カタカナ、漢字、会話の3つのグループに分かれて午前は 10:00~11:30、午後は13:30~15:00 で、日本語教室の授業を行った。ガジヤマダ大学の学生は人によって、日本語能力のレベルが様々でレベルに合わせて授業を行った。ひらがな・カタカナのグループの生徒に教える際には日本語を初めて習う学生が多いため、英語で授業を行った。ひらがなの五十音順に発音の練習をして、その後に書く練習をするという手順で教えた。会話のクラスでは私が担当したグループは日本語を日常会話程度に話せる人が集まっていた。授業では知っている日本の文化について学生に聞いたり、日本や山形について教えたり、インドネシアのおすすめの料理や場所を聞いたりして会話で交流した。最後に、漢字では数字や天気、曜日などの簡単な漢字から教えていった。私は 2 週間の滞在中に日本語教室では主に漢字を担当していた。漢字では書き順が大事で、特に難しい漢字の場合は書き順がわからないとどこから書けばいいかわからず混乱してしまう場面が多く見受けられた。私自身漢字の書き順に自信がなかったため、現地の学生に間違えて教えてしまうことを防ぐために、日本人と確認しながら教えた。漢字を学びに来る学生は日本語能力が高い学生が多く、自分の頭ではわかっていることを言葉に表現することが非常に難しいと感じた。例えば、「自」という漢字の「自ら」という読み方の使い方について問われた際に、「自分」や「私」という漢字との意味の違いを説明することが難しかった。次に、日本語クラスで私たちは日本の文化に知ってもらう機会として文化交流の時間を設けた。文化交流では習字・けん玉・折り紙・あやとり・かるたを行った。現地の学生が笑顔で一つひとつの遊びを楽しんでいて、たくさんの笑顔が見られたので非常にうれしかった。また、ガジヤマダ大学の学生が日本の文化を授業が終わった後に、好きな日本のアニメや漫画、歌の話をして交流を深めた。さらに、日本語教室の最終日には FarewellParty を開いてくれて、日本語や日本の文化に関するクイズを出題し、ランキング上位者には日本のお菓子をプレゼントした。加えて、椅子取りゲームと「だるまさんが転んだ」の日本の 2 つのゲームを行って、日本のゲームで楽しんでもらった。FarewellParty の後には、日本語クラスに参加していたガジヤマダ大学の学生からたくさんのお菓子や雑貨などのお土産をもらって非常にうれしかった。

### 2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室以外では私たちにいつもついてくれるバディが様々な場所へ連れて行ってくれた。休日にはインドネシアの有名な世界遺産であるボルブデュール寺院やジョグジャカルタの王様の家、海やラマナ物語の鑑賞などに行った。特に、海に行ったときに一緒にたくさん写真を撮って寄り親睦を深められた。移動のバスでは日本の歌やインドネシアの歌を歌ってカラオケのように盛り上がった。平

## 【学生大使 実施報告書】

日には日本でいうイオンのようなショッピングモールやおいしいジェラートのお店、現地で人気のスーパーに行った。また、毎日おいしい夜ご飯のお店に連れて行ってくれて、様々なインドネシア料理を食べた。その中で私の気に入りの料理は「Mie Ayam Bakso」という、肉団子とチキンが入ったラーメンである。一番好きなフルーツジュースはバナナとドラゴンフルーツが入ったバナナドラゴンジュースだ。しかし、インドネシアはイスラム教を信仰している人が多いため、インドネシア人のほとんどがムスリムである。私たちがインドネシアに到着した2日後にラマダンが始まってしまったため、私たちをお昼に飲食店に連れて行ってくれたにもかかわらず、一緒に食べることができずインドネシア人には非常に申し訳ないと思った。さらに、インドネシア人が交代でお祈りに行って山大生だけにならないように配慮してくれた。日本では宗教について触れる機会はあまりないため、現地に行って宗教について肌で感じることに繋がった。

### 3 参加目標への達成度と努力した内容

私の参加目標は2つあった。1つ目は現地の学生のためになる授業を行うことだ。授業を行うための教材は日本から持って行っていたが、日本語を教える経験はもちろんなく、不安だった。実際に授業をやってみると、持ってきた教材は非常に役に立った。しかし、教えるものの順番や毎回よく教えるものは紙やスライドなどの形にしておくとうれしかった。その後、紙に数字や曜日などを書き出して授業中に書く時間を減らして、授業を効率的に進められるように工夫を行った。また、日本語クラスに授業を受けに来るのが2回目以上の学生が来た際には、山大生と進捗の状況を共有して、内容が被らないように情報交換を行った。次に、2つ目の目標はインドネシアの料理をたくさん食べることである。授業で出会った現地の学生やバディにおすすめのインドネシア料理を聞いた。そして、バディに何を食べたか聞かれた際に教えてもらった料理を言って、2での述べたようにお店に連れて行ってもらい、様々なインドネシア料理を食べることができた。

### 4 プログラムに参加した感想

日本語クラスに来てくれるガジャマダ大学の学生は日本に関心の高い人が多く、またインドネシア人はフレンドリーで思いやりのある人たちであるため、私たち日本人にたくさん話しかけてくれたり話題を振ってくれたりして、現地の人とたくさん話すことができた。私は英語力にあまり自信がなかったが、実際にネイティブの人と話すことで英語力が向上したとを感じる。私は今回初めて海外渡航を経験したが、一緒に行った山大生やバディがいて、非常に安心できる環境だった。私はこの学生大使派遣プログラムに参加して本当に良かったと思う。最後に、インドネシアに行った山大生は16人と過去最多の人数だったのにもかかわらず、私たちを受け入れてくれたガジャマダ大学といつも支えてくれたバディのみんなに非常に感謝しています。

### 5 今回の経験を踏まえた今後の展望

私は学生大使派遣プログラムを終えて、インドネシア語とジャワ語の勉強を始めたいと思う。インドネシア人はインドネシア語も使いますが、日常会話ではよくジャワ語を使っていることを知った。私は今回インドネシアに渡航して、またインドネシアに行ってみたいと思ったため、インドネシア語とジャワ語どちらも勉強したい。また、自分の英語力はまだまだ低いと感じたため、引き続き勉強していきたい。さらに、

【学生大使 実施報告書】

今後は国際交流のイベントなどにも積極的に参加していきたい。

6 現地での活動写真

写真1

ボルブデュール寺院



写真2

Mie Ayam Bakso



## 【学生大使 実施報告書】

### 写真 3

日本語クラスでの写真



### 写真 4

パディと夜ご飯

